



昨年行われた第1回「丹波ささやま大田動会」の様子。参加者たちは水田の中で熱戦を繰り広げました

第2回「丹波ささやま大田動会」 田舎もんでええやないか

だいでんどうかい



「丹波ささやま大田動会」を主催される篠山青年会議所の田中理事長、河南副理事長、森田さんにお話をうかがいました

人が好き まちが好き

街かど Report

レポート



リポーター 山本 幸子さん (川北)

水田の中で行う運動会

味岡奥の水田を利用した第2回「丹波ささやま大田動会」は6月2日、地域の祭りである第27回「大國寺と丹波茶まつり」(6月2日・3日開催)に併せて行われます。競技内容は、障害物競走や玉入れ、リレーなどの5種目。司会には、元ABC放送アナウンサーの安部憲幸さんが出演し、会場を盛り上げます。今回、

わたしは、この催しを主催される篠山青年会議所の皆さんにお話をうかがいました。

最初にわたしが「大田動会」の出場者募集チラシを見たとき、「大田動会って何かな?」と思いました。しかし、内容を聞いて「なるほど!水田の中で行う運動会」、ユニークなネーミングに思わず笑ってしまいました。近ごろいろいろな催しが行われている中でも、この催しはとても

素朴でほほえましい企画だと思えました。

そもそも、篠山青年会議所の皆さんがこの催しを企画されたのは、少しでも多くの皆さんに篠山に来てもらい、楽しんでもらいたいとの思いからだそうです。また、水田の中で土に触れ、泥にまみれることで農業の大変さを理解し、今ある自然の恵みに感謝してほしいという願いも込められています。

田中理事長は「最近では農業が機械化され、農家の方でも水田に入る機会が少なくなっています。参加される方はもちろんですが、見学される方も水田に足をを入れていただき、水田を肌で感じ、全身で田舎を感じてほしいです」と催しに寄せる熱い気持ちを話されます。

わたし自身、水田には入ったことがありません。でも「大田動会」の当日、わたしたちが毎日食へている、あ

丹波篠山の農地を守る

近ごろ、市内では農業の担い手不足で休耕田が増えてきているそうです。この「大田動会」が行われる目的の一つに、休耕田の有効利用があります。人間は、自分が住んでいる周囲の土地から収穫した農作物を食べることが一番よいのだと聞きます。わたしもそのとおりだと思います。郷土から収穫した農作物を感謝して食へることが、郷土を愛することにつながっていくのだと思います。

「大田動会」が行われることの本当の意味は、水田の土に触れることで、田んぼへの親しみ、その大切さを少しでも感じてもらうこと。今回の取材で、篠山青年会議所の皆さんからこの思いを強く感じました。先祖から受け継いできた豊かな農地を守り、生かす方法をみんなで考えていきたいと思います。そのことが、ふるさと丹波篠山を愛する心を育てていくのではないのでしょうか。

篠山青年会議所の創意工夫

篠山青年会議所の皆さんは、それぞれ忙しい仕事をされているかわら「大田動会」の準備を進められています。競技に使用される道具や小



昨年行われた「丹波ささやま大田動会」で、泥んこになりながらゴールを目指す参加者たち

道具などは、ほとんどが手作り。泥を洗い流すシャワーも手作りなんです。当日は、それらの道具が、会場の雰囲気を出し、来場者の皆さんを温かく迎えてくれるのだと思うと胸が熱くなります。また、行われる競技は障害物競走や玉入れ、リレーなど、大変ポピュラーなものですが、その競技のネーミングや準備された各賞などは、とてもユニークなものも盛りだくさん。篠山青年会議所の皆さんの創意工夫によって行われる「大田動会」、今から当日が待ち遠しくなります。

暗いニュースが多い近ごろ、郷土愛にあふれた素朴なこの催しは、たくさんの方を来場者を優しい心で満たすのではないのでしょうか。皆さん6月2日はぜひ、「大田動会」へお越しください。フリーフレー「大田動会」。フリーフレー「篠山青年会議所」。

■「丹波ささやま大田動会」に関する問い合わせ 社団法人篠山青年会議所 ☎594・4230